

様式第 6 号(第 2 条関係)

委員会等の会議録

1 会議名	令和 6 年度愛南町自殺対策検討委員会	
2 議題	(1) 自殺対策計画推進状況報告 (2) 令和 7 年度の取組について (3) その他	
3 開催日時	令和 7 年 2 月 28 日(金) 15 時 30 分から 16 時 30 分まで	
4 開催場所	愛南町役場 2 階 第 1 会議室	
5 傍聴者数	0 人	
出席者		
6 委員氏名	長野 敏宏、影山 康彦、伊井 まゆみ、齋藤 弘文、 福原 晶子、尾川 美保 (欠席) 石川 晴信、清家 康之、埜下 浩孝、中尾 眞知子	
7 担当所属	所属名	保健福祉課
	担当職員 (職・氏名)	課長 中川 菊子 課長補佐 荒地 ミドリ、西田 昌代 保健師 森下 未結、西川 里菜
8 その他の 出席職員	所属名	
	出席職員 (職・氏名)	
議事内容(次ページから)		

発言者	発言内容
中川課長	(開会挨拶)
荒地課長補佐	本会議の協議内容につきましては、要綱に基づき、ホームページで公開しますので、御了承いただきますようお願いいたします。 (委員紹介) では、協議事項に入ります。 協議事項(1)、(2)について事務局から説明します。
西川保健師 西田課長補佐	(協議事項(1)「自殺対策計画推進状況報告」及び(2)「令和7年度の取組」について説明)
荒地課長補佐	事務局から説明のあった計画の推進状況及び令和7年度の取組につきまして、御意見等質問はありませんか。
長野委員	精力的にかなりのエネルギーを割いて、丁寧に取り組んでいる様子が伝わってきますし、現場でもそれをひしひしと感じます。その中でも自殺者を防ぎきれない愛南町の状況は、様々な相談の最終のところでもかなり持っているところですが、力が及ばないことがあります。国の自殺対策に沿って非常に丁寧にされていますが、愛南町は、国の状況より更に一歩二歩三歩進んだ状況で、地域の厳しさなど様々なところがあります。母数が少ないので率が一気に上がってしまっていますが、少し上がった状況をしっかり捉えて、町としてはどうなのか更に知恵を絞っていかないといけない状況にきていると思います。 現状の制度、政策を使えるようになってきましたが、あっという間に引き出しが尽きてしまって救えないということも経験します。お金の貸付け等、様々なありますけれども、救えるほどではないことも多いです。地域の企業や、行政、医療機関、介護施設もそうですが、人不足も含めて本当に余裕がないです。 厳しい状況で求められるものも多くなっている状況で、価値観の変換も必要な時代になってきたのかなと思います。お互いにやるべきこと、やらなくて良いことを選びながら、全体を緩めていかないとともにたなくなります。相談現場からも限界のようなものを強く感じています。 今の自殺対策で、メディアも問題があるのではないかという指摘もたくさんあります。今まではテレビでしたが、今はほとんどネットの情報になっています。ネットの情報も決してプラ

発言者	発言内容
	スになるものばかりではなく、制限も掛けられない状況です。 また、愛南町では高齢者のケーブルテレビの視聴率はかなり高く、ケーブルテレビの内容が町の雰囲気はかなり決めていくところもあり、そういうところまで考えていく必要があるのかと思います。様々なものが赤裸々に中継されていると思いますが、それを見ながら町に希望が持てるかどうか、これで良いのだなと思える町かどうかということも大事です。小手先の慰めでは、切迫したところでは通用しません。愛南町が本当に生き心地が良い、住み心地が良い町なのか、次の段階へ少し知恵を絞らないといけない時期になっているのではと思います。 最近、コロナの時は良かったという相談が多く、コロナの時は比較的落ちついて過ごしていたけど、今はすごく動き出したのでとても辛いと言う方々も増えてきています。本当の生き心地というのは何なのか、責務ばかりではなく、本当にできる余裕があるのかどうかなど、ゆとりを出さないといけないです。 働き方改革も言われますが、医療関係者の働き方も福祉関係者の働き方も、残念ながら進んでは言い切れないし、行政機関もそうです。霞が関が働き方改革の旗を振りながら、霞が関の職員はそこからほど遠いというかい離をなくしないと、ゴールには近付かないのかなと思います。自殺対策と思って皆が寝る暇もなくなるようでは、次の問題を起こしてしまいます。 ここまで丁寧は何年もやられてきて、過去では考えられないぐらい相談も多くなってきました。学生さんや先生たちともしっかり連携ができるようになってきたし、企業も変わってきましたので、次は本当に何が要るのかを考える時期になっているのかなと思っています。
荒地課長補佐	自殺対策で協力いただいている保健所からも意見を頂いてもかまいませんか。
影山委員	悩みについて相談できる人がいる割合について資料2を頂いていますが、どこのデータを見ても学生さんにはアンケートを行っていますが、実は高齢者の方が相談できる人が少ないのかなと思っています。もしデータがあれば教えていただきたいです。
西田課長補佐	高齢者に特化したアンケートは行っていないんですが、健康づく

発言者	発言内容
影山委員	りに関するアンケートというものを、健診を受けに来られる方に実施しています。健診に来られる方は60代以上が多いので、どちらかといえば、高齢な年齢層にはなるかと思います。年代別についても分析しながら今後も見ていきたいと思っています。 高齢の方は、デイサービスを利用している方や持病のある方も多いので、医療機関にかかられている方も多いと思います。例えば、整形外科に通っている方が多いと思いますが、先生方にも是非気付いていただいて、関係機関へつないでいただくと良いのではないかと思います。医療が抜けがちになることが多いので、深刻なときはきちんとしたところにつないでいただきたいと思います。医療機関にも周知すれば、高齢者のケアがもう少しできるのかなと感じました。
西田課長補佐	医療との連携については、保健所では医療機関と未遂者連携連絡票等も活用して連携されていると思います。愛南町では、精神面で気になる方については、県立南宇和病院等の地域連携から情報が入ることもありますので、今後医療の方にも幅広く周知していけたらと思います。
荒地課長補佐	高齢者支援課はどうでしょうか。
尾川委員	高齢者の自殺が多いということで、老人クラブのような元気で活動的なお年寄りについては相談窓口等のチラシをお配りしていますが、実際は家の中で引き籠っている方が、問題は大きいのかなと感じています。そういった場合には、家族の中にも引き籠っている方がいるなど、高齢者だけの問題に限らず様々なところでつながっているのかなと感じています。介護認定を受けてケアマネが付いている方は、情報が入り対応することがありますが、元気なのかどうか分からず、病院とも関わっていない、介護認定も受けていない方の情報は入らないため、これからどのようにすくい上げていくか検討していく余地があると思います。
荒地課長補佐	ありがとうございます。教育委員会からお願いします。
福原委員	SOS の出し方教室等を開いていただいてありがとうございます。

発言者	発言内容
	す。SOS を出しても良いのだということを知ってもらおうことが一番大事だと思います。中学校を卒業した後、南宇和高校は引き続きありますが、南宇和高校に進まない場合や、学校を辞めてしまった子供たちに支援が届きにくいことが、学校教育課としても課題です。SOS の出し方教室を通して、SOS を出しても良いのだということが心に残っていたり、そういった悩みを相談する場があるということ、今は必要なくても何かを抱えたときに思い出して活用する手立てになったら良いと思います。
荒地課長補佐	民生委員でもある斎藤委員、御意見をお願いします。
斎藤委員	私たち民生委員は 80 歳以上の高齢者の家庭を徹底して回っています。約 90 名の民生委員が手分けして回っていますが、愛南町は高齢者の自殺者が多いと聞いて少しショックを受けました。子供民生委員という話もあり、大人から言うより、子供の目線でいろいろな相談に乗ったり、反対に乗ってもらうなど、小学生ですが、そのようなことも予定しています。高齢者も、大人に言われるよりも子供に言われた方が聞き入れるところもあり、そこから孤立を防ぐことができたらと思います。 余分ですが、この間テレビでお四国参り歩き遍路の放送がありましたけど、外に出て外部の人と話をすることによって、自分自身の気分も変わってくるようなので、なかなか難しい問題ですが、一つずつ解決していかないといけないなと思っております。
荒地課長補佐	ありがとうございます。社会福祉協議会の伊井委員、御意見をお願いします。
伊井委員	社会福祉協議会では、自殺に特化した取組は行っていないんですが、相談に来られた方でお金に困っている方が本当に多いです。役場の相談窓口でも高齢者で困窮してる方が半数を超えている状態です。先ほど、長野先生が小手先の支援と言われていましたが、お金を貸して終わりではなくて、その後の継続した支援が本当に必要だと感じています。社協では、生活福祉資金や緊急時の食料支援などを行っています。ほかには、コロナ特例の貸付けをしている方には文書を送付して、その後の生活について

発言者	発言内容
長野委員	のアンケートも行っています。継続した支援でつながっていくことが大切だと感じています。 高齢者の自殺者は、愛南町が多いというわけではありません。世界中で高齢者の自殺者は多いです。それは生きる希望が持ちにくいからです。愛南町がほかに比べて多いのは、20代、30代、40代だと思います。50代の自殺率が高いのは世界中で日本だけです。世界では、80代、90代の方の自殺率が高いです。日本は、責任制みたいなところで50代にすごく負荷が掛かっているというのが仮説です。愛南町が、20代、30代、40代、50代が特異的に多くなっているということを心配しています。 精神科の集団精神療法で言われていることですが、集団精神療法で配慮しないといけないことは、その集団に入れない人たちに対する配慮です。自殺について私が心配することは、集まる機会を作ってつながろうというところで止まってしまうことが多いことです。リスクのある人たちは、そのような集まりが、自分が行けないところで行われていることにもプレッシャーを感じます。イベントをしなければ良いということではなく、つながらない意味や、つながらなくても良い保証や配慮が深まっていく必要があると思います。まずはつながることを目標にしますが、つながらないときの配慮を常に考えることが大事です。 先ほど町の雰囲気や次の戦略という風に言ったのは、「皆で明るい町にしましょう」というのでは自殺対策にはならないということです。人口が多いときは、何となく紛れて隅で居心地が良い場所が必ずありますが、人口が減り過ぎて、隅から隅まで見えてしまいます。自殺を考える方も見えていて、余白がなくなっているのが愛南町だと思うので、それをつながりが強いと捉えるのではなく、御本人の立場で捉えて支援者もスタンスを決めないと難しいと感じます。 私は、診察や相談の最後に、「何でも相談してください。」と必ず言っています。10年、20年言い続けて、やっと一言言ってくれるかどうかというところだと思います。一回でつながろうとせずに、丁寧にしていくことがすごく大事ですし、人を集める取組をするときは、集まらない人にしっかり配慮することを広げていきたいと思います。 ひき籠った方々が、「学校で一番辛かったのは、皆で4人グループを作ると言われることだ。」と言っていました。前後左右

発言者	発言内容
	の人とグループを作ってくださいと平気で言いますが、こういうことが社会の積み重ねだろうと思います。愛南町の自殺対策がもう一歩先に行くには、そのような配慮の文化が一歩二歩先に進むということだろうと思います。 社協は最終窓口になっていて、いくら制度を持っていてもしんどいだろうと思っていて、バックアップがもっとあればと感じています。SOS を出される方のちょっとしたサインを見逃していたなと思う瞬間があります。担当者だけでそれを受け止めるのは不可能なので、バックアップを次から次へと重ねていくことが大切と考えています。
荒地課長補佐	ありがとうございます。ほかに何か御意見はありませんか。 続きまして協議事項(3)その他についてです。自殺対策についての御意見、御質問等はありませんか。
委員一同	(意見なし)
荒地課長補佐	以上で本日の協議は全て終了しました。熱心に御協議いただきありがとうございました。様々な自殺対策や配慮をしていただいていることをお聞きし、今後もお互いがつながりながら支援をしていけたらと思います。また、長野委員が言われたように、集団に入れない人や孤立した人たちをどのように支援していくかを考えながら、事業を進めたいと思います。民生委員が80歳以上の方を訪問されていることは大変だと思いますが、大切なことだと思いますので継続していただけたらと思っています。御協力よろしくお願いします。 以上をもちまして、令和6年度愛南町自殺対策検討委員会を終了します。本日はありがとうございました。